

惜別



故土井一孝さんを悼む



1月13日深夜 長年にわたり、我らの県尼37会幹事長を務められてきた土井一孝さんが急死されました。

昨年夏より 声が出にくく、加療中とお聞きしていましたが、「週2回の通院治療が続きますが、12月中旬退院。家族揃って正月を迎えました。今年も例年通り37会を開きましよう」とのメールをいただいていた矢先での突然の訃報にびっくりし、まさか・・・と。13日午前 病院で診察を受け「状態は良いので1週間後にまた診察に来るように」とのことで帰宅。午後8時頃 奥様に付き添われてトイレへ行く途中で、崩れるように倒れられ、心肺停止に。救急車のAEDで一度は蘇生され、家族と手を握ったりされたようですが、深夜出張から急いで帰られた息子さんと目をパチパチして、対面されたのが最後だったと聞き及んでいます。

県立尼崎高校そして大学を卒業して、市役所に奉職され、社会福祉・地域行政の推進など尼崎市の都市行政のリーダーとして勤められる一方、民生・児童委員そして保護司として 地域密着の福祉・青少年育成と地域活性を推進されました。さらに、それらの団体の尼崎三役などの重責を務められる一方、高校時代から続くコーラスの仲間の会や地域行政に携わる中で、長きに渡り企画・推進されてきた「尼崎市民ハイキングの会」を退職後もずっと続けられるなど、尼崎の地域活性にはなくてはならぬご活躍をされているさなかでの急死でした。

そんな多忙な活躍の中、一方、我々県尼昭和37年卒同窓会・県尼37会の幹事長として「毎年3月7日 元気に集まろう」と仲間がみんな楽しみにしている同窓会の具体的企画・準備を長年にわたり、中心となって推進して来られ、本年の会場もすでに手配折衝を済まされていたと聞いています。

人の前に立ってもいつもさわやか。それでいて堂々とした語り口に、いつも多くの人たちに囲まれ、みんなから愛されたリーダーでした。

16日の告別式では そんな土井さんの遺徳をしのぶ大勢の参列者や県尼37会の仲間たちに見守られて、旅立って行かれました。

「遠き別れに 耐えかねて この高殿に登るかな・・・

別れといえば 昔より 人の世の常なるも 流るる水を眺むれば いとはずかしき この別れ」

惜別の悲しみとともに 惜別の歌をついつい くちずさんでいました。

道半ばで逝かれた土井一孝さん 本当に残念でなりません、今はただ 安らかにお眠りください。

合掌

土井一孝さんの追悼の意をこめて、在りし日の土井一孝さん 県尼37会での姿をピックアップしました。

また、土井一孝さんが、すでに準備を進めてくれていた本年の県尼37会ミニ同窓会。

追悼の意も込めた元気な同窓会にしましょう。

どうか 多くの仲間が元気に参集されますよう。

また、病院通いに介護と年ごとの衰えはいかんともしがたし。参加がかなわぬ仲間にもエールを送ります。

仲間がいる どうか 無理せずゆっくと 今を楽しくお過ごしください。

県尼37会 2015. 1. 16.

報告 副幹事長 野村 恭子

広報担当 中西 睦夫

故土井一孝さんを悼む

【土井さんからの37会メンバーへの最後のメッセージ】

6組土井です ご無沙汰しています。

おおよそ半年の入院生活。12月中旬退院、家族揃って正月を迎えましたが、週2回の通院治療が続き、先が見えていません。

今年も例年通り37会を開きますが、世話人で詰めていきます。

2015.1.1. 土井一孝

【在りし日の土井さんの姿】

毎年3月7日 集ってきた「県尼37会 ミニ同窓会」で

